

1. 2014 年度の総括

① 収支状況（表中の単位：千円）

決算見込み	予算比 (%)	前年比	
収入	50,818	99.6	⇒
支出	41,330	99.6	⇒
経常収支差額	9,487	99.4	⇒

評価：下半期からメンバーの長期欠席があり、収入が見込み程伸びず。横ばいをキープする形となる。



るーぶ班作品（るーぶアートギャラリー）

② 職員配置と研修（職員数は 2015 年 1 月現在）

- 常勤 6 名（主任 1 名）と非常勤 4 名（運転手 1 名含む）の体制を維持することができました。
- 部内研修を月一回ペースで実施。テーマを各担当に委ね、職員の言語化の体得を目的としています。ただし、全常勤が今年度で回らず、また非常勤を含めた研修までに至っていないのが現状です。未担当は次年度に回し、内容によっては非常勤の参加も含めた拡大研修の実施を目指していく必要性を感じます。

③ 事業内容

アートギャラリーを長居にある「花と緑の情報センター」に変更。展示だけでなく、販売の機会を得ました。また、総センフード班との協同作業による関西らあ祭企画の記念バッチの受注、さらに、アート作品（原画）の販売など、外へ発信してきたことによる収入 UP という成果につながりました。一方、環境の変化による居づらさを感じるメンバーの存在もあり、プログラムと個々のニーズを照らし合わせた新たな環境設定の必要性を感じています。

④ 品質管理

- 職員およびプログラムの定着化により、気づかぬうちに惰性で動いている部分が少なからずあるでしょう。メンバーと職員の関係ではなく、一人の人として関係性を築いていくことが支援の実践につながるように、普段から支援＝人と接する上での不安、ふとした疑問などをミーティングなどで話し合う場を設け、職員同士の心の中のわだかまりを解き、働きやすい職場作りを目指していきます。
- 施設の汚れが目立ってきており、その指摘を受けています。館全体の取り組みとして、高齢部署も含めた美化活動への意識化を図り、キレイな施設作りに努めていきます。
- 送迎中などでの車の物損事故が目立ちました。不慣れな職員もいる為、運転講習の機会を設け、個々の運転時の注意点をグループワークし、気づきにつなげています。

2. 2015年度の計画

① 予算案のポイント

費目	予算(単位:千円)	前年比	算出根拠・購入物品など
収入	52,291	⇒	新規メンバー3名増加 既存メンバー2名長期欠席中 1名退所予定
支出	41,690		プリンター(アート)・30,000 作品保管用ファイル(アート)・25,000 画材道具(アート)・30,000 缶バッチマシーン(受注作業)・50,000 アイロン(さをり)・10,000

② 主課題

『価値ある商品とよりよい生活は 小さな努力の積み重ね』

- モノ作りはこの4年間で目指していくべき形が作られ、メンバーへの意識化にもつながってきました。この継続を重視し、夏冬のギャラリー展開催による展示・販売と、秋冬の障がい者アート展入選の二本柱で年間プログラムを運営していきます。さらに、より質の高い作品・商品作りを目指すべく、画材の充実と個別プランを策定し、個々のスキルアップを図り、なお一層の作品・商品への特別感を生み出す環境を設定していきます。
- 将来への不安がメンバー・ご家族の高齢化などにより、年々高まっています。「今できることを元気なうちにやっていく」ことをメンバー・ご家族と一緒に具現化していきます。通所以外のサービスにも目を向けていき、ショートステイ・ヘルパー・計画相談など利用できるサービスの充実化を図っていきます。
- メンバーの障がい状況、高齢化などで班自体のニーズが複雑化しています。現状、環境に合わず利用困難なメンバーの存在もあります。2016年度の新規事業に向けて、オガリ作業所・総セン生活介護のメンバーのニーズをアセスメントし、全体的に班構成の見直しを図っていきます。

③ 年間事業計画(予定)

4月	春の外出(花見)	11月	秋の外出(アート展見学)
5月	であい感謝祭、キャンプ旅行	12月	るーぶアートギャラリー②
8月	るーぶアートギャラリー①	1月	初詣
9月	神戸日帰り旅行、あわら旅行	2月	家族会
10月	障がい者アート展		